WFPメールニュース（拡大版）

United Nations World Food Programme

2007/1/19

WFP日本事務所代表・玉村美保子より　新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。去年を振り返ってみますと、「アフリカの1角」における干ばつと洪水、スーダン情勢の悪化、ジャワ島地震、レバノンでの紛争などさまざまな緊急事態があり、多くの人々が飢餓に苦しめられました。

近年のWFPの活動の傾向として、戦争、紛争、災害などによる緊急事態における食糧援助需要が増えているということが挙げられます。自然災害は防ぐことが難しいとしても、戦争や紛争、内戦は人災以外の何ものでもありません。最も大きな被害を蒙るのは、社会的弱者である女性や子どもたちです。今年こそは世界に平和が訪れるようにと願ってやみません。

2007年、WFPは世界中で7,700万人の難民や国内避難民、子どもたちなどに対して食糧援助を行う予定です。本年度もどうぞ温かいご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

WFP日本事務所代表　玉村美保子

食糧援助の現場から

大津波から2年～アチェにおける復興活動について　インドネシア・ムラボー地域事務所より

先月号に続き、スマトラ沖大地震で大きな被害を受けたインドネシア・スマトラ島からの現地報告をお送りいたします。今回は、スマトラ島にあるムラボー地域事務所に勤務するWFP職員、下村理恵からの報告です。

ムラボーの街は、スマトラ沖大地震の震央から100キロ未満に位置しており、アチェ西海岸沿いの都市の中でもきわめて被害が大きかったところです。

津波発生後、WFPはそれまでの緊急援助の経験をいかして、いち早く現場に駆けつけ、いくつかの地域事務所を立ち上げました。そのうちの1つが、津波発生から半月後の2005年1月中旬に設立され、現在私が働くムラボー地域事務所です。同事務所は、緊急食糧配給プログラムを開始し、津波で最も大きな被害を受けた人や援助を最も必要とする人に、速やかに食料を配給しました。2005年4月には小学校での給食配給を開始。これは、学習能力や集中力の向上および微量栄養素不足による栄養不良の改善を目標としています。

授業を受ける生徒たち

2006年初めには、乳幼児や妊婦、授乳中の母親の栄養状態の改善をはかる母子栄養プログラムが開始されました。

ムラボー地域事務所は西海岸600キロにわたる5地区を管轄し、地域事務所のうち最も活動地域が大きい事務所です。20万人に及ぶ食糧援助の対象者の大半は津波被害者で、テントや簡易住居に仮住まいしている人や、

親戚や知人の家に身を寄せている人でした。

配給された食糧は、米、サラダ油、魚の缶詰、栄養強化麺、ビスケットの5品で、一日の必要摂取量である2,100キロカロリーが摂取できるようになっています。状況が好転するにつれ、配給を受ける人の数は徐々に減り、配給内容も調整されました。WFPは、2006年の間は支援を続けましたが、2007年には終了する予定です。

現在は、緊急支援から復興支援へと支援の内容も変わってきています。最近は、公共工事などで働いてもらい、その給料の代わりに食糧を配給するという事業を始めるべく、 NGOや政府と交渉中です。これは、破壊された地域の社会基盤を再整備することにより、住民の生活の向上や食糧事情の安定化を目指すものです。

WFPが配給をしている小学校

WFPが学校に届けた食糧

WFPは最近、ユニセフと共同で寄生虫駆除事業を実施し、関係者から大変高い評価を受けました。これは、寄生虫による感染症の罹患率を低下させるとともに、衛生や保健に関する知識の向上なども目標としています。今年2月には二回目の寄生虫駆除錠剤の集団投与を予定しています。

津波発生から2年がたち、街には商店が立ち並び、復興の槌音が聞こえています。ムラボー地域事務所はこれからも、地元の人々や行政、NGOなどのパートナーとともに復興を後押ししていきます。

インドネシア・ムラボー地域事務所
下村　理恵（しもむら　まさえ、写真右）

知花くららさん、WFPのパートナーに

知花くららさん

2006 ミス・ユニバース・ジャパンであり、2006 ミス・ユニバース世界大会でも第2位に輝いた知花くららさんが、今後、パートナーとしてWFPの活動に参加して下さることになりました。

知花さんは昨春、上智大学文学部を卒業。日本語に加え、英語、フランス語、スペイン語も操り、将来の夢は「国際的に活躍するインターナショナル・レポーター」という知性と美貌を兼ね備えた素敵な女性です。小さな頃からチャリティー活動に興味があり、「様々な機会を通して、人々に世界の飢餓の現状を訴えたり、資金集めに協力していったりしたい」と力強く語っています。

活動内容については現在調整中ですが、WFPの食糧援助現場の視察や、イベントへの参加などを予定しています。

1月23日発売の雑誌「マリ・クレール」に知花さんのインタビューが掲載されます。どうぞご覧下さい。

活動報告

タカシマヤ(国連WFP協会評議員）とのタイアップイベント（ラブベアチャリティ販売＆チャリティーサンタ報告）

横浜タカシマヤ、港南台タカシマヤ、立川タカシマヤでクリスマスのディスプレイで使用した「ラブベア」を1月6日（土）、店頭でチャリティー販売しました。

タカシマヤの店頭ディスプレイで人気の3色（赤・緑・ピンク）のラブベアを終了後処分してしまうのではなく、希望の額をWFPへ募金していただく代わりにプレゼントするこの企画。

人気の「ラブベア」

横浜タカシマヤでは開店時に約300人の行列ができ、午後4時には完売しました。募金は横浜店と港南台店の合計で50万円以上となり、WFPへ寄付されます。（立川店の募金額は集計中。） 当日は着物姿の新成人と10代、20代の若いボランティア10人がチャリティーへの参加を呼びかけ、大きな注目を浴びました。

昨年11月23日よりタカシマヤ全店で限定販売したサンタ人形は（2006年11月17日メールニュース拡大版参照）、好評のうちに翌24日には全店で完売しました。

ランバン人形チャリティーオークション

ランバン ジャパンは、ランバンのレディース・クリエイティブ・ディレクターであるアルベール・エルバス氏がデザイン・製作したドレスをまとった人形のチャリティー・オークションを実施しました。その落札価格の全額、合計63万6,000円がWFPに寄付されました。

2006/7年秋冬コレクションをそのまま再現したドレスをまとった3体の人形は、それぞれ、ランバンブティック銀座店、阪急百貨店（国連WFP協会評議員） 大阪・梅田本店ランバンショップ、月刊女性ファッション誌「SPUR」にて紹介され、入札形式のオークションにかけられました。12月10日、東京・表参道でのランバン・クリスマスパーティー会場で、出席者の暖かな拍手の中、3人の落札者に人形が贈呈されました。

落札された3体の人形

エルバス氏は「個人個人が意識を持って社会貢献活動を支援していくことの大切さを、ラグジュアリー・ブランドという立場から発信できたのでは」と、今回の取り組みを総括しました。

今後の予定

2月3・4日 ワン・ワールド・フェスティバル（大阪）WFP ブース出展
FoodForce紹介ワークショップ（3日午後）も行う予定です。皆様の参加をお待ちしています。
詳しくは http://www.interpeople.or.jp/owf.html をご覧ください。

発行： WFP日本事務所
特定非営利活動法人 国連WFP協会